

馬場ひでゆきの活動日誌

No.47

12月定例会が開催されています。12月5、6、9日は、代表質問・一般質問がありました。ここでは、県政の重要な課題についての質問・答弁を報告します。

●県立高校の数が減る。

県教委は、先月、中学校卒業見込み者数の減少を踏まえ、県立高校の数が25年度の86校から、34年度に22校減の64校にするとの将来構想案を示しました。

「上越」地域でも、学級数が現在の39学級から27学級に減少する見込みです。

燕市が地元の柴山唯議員は、「地場産業の人材確保などにも関わる大変な問題であり、子ども数だけでは測ることができない。関係市町村の意見を十分に吸い上げてほしい」と指摘しました。同感です。

●村上病院、来春から分娩休止

J A県厚生連村上総合病院が来春から分娩の取扱いをやめます。知事は、急速に少子化が進む中、分娩施設を維持していくのは無理があるとして、市外で



新潟の酒は今でも地元根付いてます！

出産する妊婦に対しては、交通費、宿泊費の補助を検討する考えを示し理解を求めました。

これに対しては、「安心して子どもを産み育てられる環境を県として整備していくことが必要」(未来(※)・土田竜吾議員)などの指摘が相次ぎました。合理化は避けられないとしても、分娩は時として予測できない事故が起こります。どうしても分娩休止が避けられないなら、妊産婦に対する手厚い補助が必要です(※会派「未来にいがた」の略称です)。

●被爆線量シミュレーション

県は、東京電力柏崎刈羽原発で重大事故が起きた際の被ばく線量のシミュレーションを独自に実施することを明らかにしました。

これに対しては、「福島第一原発事故に相当する過酷事故を想定して行うべき」(未来・樋口秀敏議員)などの指摘が複数の議員からありました。

知事は、原子力規制委の山中委員長「過度な放射線のリスクを考えた避難というのは実効性のある防災計画であるとは言えない」という発言を引用し、今回は「避難計画に対する県民

の皆さまの理解向上を図ることが目的」として過酷事故を想定したシミュレーションの実施を否定しました。

住民の不安に 대응することが県の仕事だと思えます、知事の姿勢は不十分です。

●「伝統の酒造り」世界遺産に

ユネスコが日本酒や本格焼酎、泡盛などの「伝統的造り」を無形文化遺産に登録しました。

これについては、国内消費の拡大、海外への輸出増、地域振興に弾みがつくなどの発言が相次ぎました。

新潟県には89の酒蔵、上越地域でも18の酒蔵があります。課題山積みの県政の中でも明るい話題になっています。

11月30日～12月13日

●11月30日 上越地区労連第33回定期大会(上越福祉交流プラザ 裏面参照)

●30日 高田木曜会合唱団定期演奏会(オーレンプラザ、46号「コーシーブレイク」参照)

●12月1日 第2回受任者説明会(市民プラザ 日誌46号)

●3日 県議会・議案説明

●5日～9日 県議会・代表質問・一般質問(議員が行政の施策の状況や方針など質問することとを「一般質問」、会派を代表して行っている場合は「代表質問」)

●8日 新そばを味わう会(板倉農村環境改善センター 裏面参照)

●10日～12日 県議会・常任委員会



事務所もクリスマス！

コーシー Break

「傍聴者の効果は絶大！」
12月9日(月曜)の午前中の一般質問の時間、傍聴席はたくさんの方々に埋まりました。この日一番手で質問する議員の支援者の皆さんということでした(遠路はるばるお疲れ様でした)。

一般質問は、新潟県議会の場合、議員が30分の持ち時間を使っていくつかの質問を知事や執行部に投げかけ、その後に知事が登壇してそれぞれの質問についての回答をします。質問も回答も、あらかじめ原稿が用意されていて、質問者も知事もそれを読み上げます。傍聴者の方には率直な感想が聞きたいところです。

それはともかくとして、この日は、「あれっ?」と思ったことがありました。議員の再質問に対して、知事が答弁。従来であれば、知事が紋ぎり型の答弁をして終わるところ、形式的な回答に続けて詳しく説明をしていました。おそらくは、たくさんの傍聴者の視線を意識していたのではないかと思います。傍聴者がたくさんいれば、議場での質疑応答も引き締まる。これからもたくさんの方々に見に来てほしいです。もちろん、私たち議員も少しでも見どころのある議場にするように努力しないといけません。

●公立学校の教員の多忙化解消は子供らが十分な教育を受けるために必要不可欠と考える。しかし、令和五年度においても教職員の多数の未配置、欠員が生じており臨時免許状交付件数の増加など多忙化が全く解消されていない。

●新潟と上越の交通の改善向上を図るということがなされていない。これも県の重要な施策のはず。上越新幹線と北陸新幹線とを結ぶ高速鉄道整備等については調査検討が行われているようであるが、現行の鉄道を利用するアクセスの改善がなされていない。

12月13日の新潟日報でも、県内公立小中学校(新潟市除く)の教員欠員数が12月1日時点で60人に上り、過去最高になっていることが報道されました。

一般会計決算 反対討論で登壇しました

反対理由は2つ

12月9日の議会で、令和五年度の一般会計及び特別会計決算の採決が行われました。

私は、次の2点を理由に一般会計について反対討論をしました。

私の反対理由の正当性を裏付けています。決算審査で意見を述べておいてよかったです。

原発再稼働県民投票条例

署名直接請求必要数集まる

これまで日誌で取り上げてきましたが、原発再稼働県民投票条例制定に向けた署名が、県全体で条例制定を直接請求するために必要な数である3万6千筆に達したと報道されました。

署名をしてくださった方々、そして署名を集めるために奔走して出された受任者の皆さんありがとうございます。

ただし、署名の目標は20万筆、期限は今年28日まで。その期間内に一人でも多くの署名を集め

目標 17110

柏崎刈羽原発再稼働の是非を問う住民投票条例の制定を求める署名活動。上越市の署名は11月26日の3431筆から6196筆に。ペースがあがってきました。この調子で頑張りましょう。

最終日は12月28日！私も頑張ります。

12月10日現在 6196

ることが、今後の条例制定への後押しとなります。受任者の皆さんギリギリまで頑張りましょう！私も頑張ります。

地区労連定期大会

11月30日、上越福祉交流プラザで上越地区労連第33回定期大会が開催されました。私も招かれてごあいさつしました。



新そばを味わう会

12月8日、板倉農村環境改善センターで「新そばを味わう会」があり、参加しました。

板倉では、光ヶ原高原を中心に休耕田を利用してそばの作付けが盛んです。毎年開催される「どうがたの郷そばまつり」には大勢の人々が集まります。

この日も、地元のそば打ち名人さんが地元産のそばで打った手打ち蕎麦をいただきました。凄くおいしかったです。そば栽培に取り組む農家の方々ともお話ができました。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイヤパレス高田武番館2階

電話 025-546-7110
ファックス 025-546-7666

メール kengi-bahideyuki@wind.ocn.ne.jp